

## 特集号「グラフェンの科学と応用」投稿募集

「炭素」編集委員会  
 主担当委員 松尾吉晃  
 担当委員 後藤和馬  
 高井和之

グラフェンの単離とその優れた電気・物理特性に関する研究に対してノーベル物理学賞が授与されて以来、フラーレン、カーボンナノチューブに続くナノカーボンとしてグラフェンが注目されています。

このグラフェンは、そのユニークな物性ととも当初は透明電極や電子部品としての応用が注目されましたが、最近ではリチウムイオン電池や燃料電池などの電極材料や添加剤さらにはセンサ用の電極など、幅広い領域への利用が試みられるようになってきました。しかしながら優れた特性を持つグラフェンを製品として実用化するには、合成法、成型法などにおいて様々な問題が残されています。また、他のナノカーボン類との大きな違いである2次元で薄いという構造的特性を最大限に活かした応用も望まれます。

一方、グラフェンは材料全体が表面であるという特徴から様々な化学修飾も可能であり、特に高濃度に酸素が導入された材料で溶液中での剥離が容易な酸化グラフェンはグラフェンの前駆体としても期待されるとともに、更なる化学変換によって多機能の複合材料の出発物質として利用されています。しかし、これらの反応の詳細や得られる材料中の官能基の種類や量、構造や機能との関連などについては十分に明らかとはなっていないのが現状です。また、本誌では243号で「グラフェンの視点から見た炭素材料」というテーマで小特集を行いました。それから5年が経過し研究を取り巻く状況も大きく変化していることから、改めてグラフェン研究の今後について議論する必要があるものと考えました。

このような背景から本特集では、グラフェンに関する研究成果を幅広く募集致します。本誌上で知識の共有を図ることで、この分野の研究がさらに発展するとともにグラフェンの産業応用の実現につながることを期待します。

**投稿方法：**はじめに、下記の応募締切日までに炭素材料学会編集事務局へ投稿のご予定をご連絡ください。そのうえで「炭素」投稿規定・投稿の手引きに従って原稿を作成し、特集号への投稿であることを明記のうえ、下記の原稿締切日までに炭素材料学会編集事務局へご投稿ください。

**応募締切：**2016年5月13日(金)

投稿原稿の区分、タイトル、著者、連絡先を明記のうえ、E-mailにて炭素材料学会編集事務局(tanso-edit@bunken.co.jp)へ電子メールにてお申込みください。郵送にて下記の住所にお送りいただいても結構です。

**原稿締切：**2016年6月24日(金)

**原稿の区分：**論文(刷上り6頁以内)、総合論文(同10頁以内)、ノート(同3頁以内)、技術報告(同3頁以内)  
**内 容：**上記分野におけるオリジナルな内容で、印刷物として未発表のもの。原稿区分の説明については投稿規定をご覧ください。

**審 査：**応募原稿は、通常の炭素誌への投稿原稿と同様の審査を行う。

**掲 載：**炭素275号(2016年11月発刊予定)

**投稿規定・投稿の手引き：**<http://www.tanso.org/contents/journal/notice2013.pdf>

**申込・問合せ先：**〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19

(株)国際文献社内 炭素材料学会編集事務局

TEL: 03-5389-6492 FAX: 03-3368-2830 E-mail: tanso-edit@bunken.co.jp